

行政視察報告書

平成 29 年 5 月 8 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員.....馬越 裕正 ① 議員.....①
議員.....藤井 義明 ① 議員.....①
議員..... ① 議員.....①

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 長野県 松本市

住 所	長野県松本市中央 1-18-1
電 話	0263-39-1139
視察案件	松本地域健康産業推進協議会
期 日	平成 29 年 4 月 26 日 (水) 13 時 50 分 から 15 時 40 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	M ウイング 1 階 松本ヘルスラボオフィス
概 要	<p>視察の目的</p> <p>松本地域健康産業推進協議会 (参加: 267 団体・企業) は、松本市の掲げる「健康寿命延伸都市構想」を推進するために必要な事業を行い、同構想を持続可能な形で推進するための新しい需要を創造し、新しい産業を創出することを目的とした組織である。健康寿命世界一を目指す笠岡市にとっても、目的達成の重要な要件である。協議会の活動状況等を検証し、笠岡市にも反映できないか、との目的をもって視察に訪れた。</p> <p>松本の現状</p> <p>将来の都市像「健康寿命延伸都市・松本」松本市の 6 つの健康づくり <まちづくりの基本目標></p>

	<p>「人の健康」 誰もが健康でいきいきと暮らすまち</p> <p>「生活の健康」 一人ひとりが輝き大切にされるまち</p> <p>「地域の健康」 安全・安心で支え合いの心がつなぐまち</p> <p>「環境の健康」 人にやさしい環境を保全し自然と共生するまち</p> <p>「経済の健康」 魅力と活力のあふれにぎわいを生むまち</p> <p>「教育・文化の健康」 ともに学びあい人と文化を育むまち</p> <p>この基本目標では、「健康」を「より良い状態を保つこと」と捉え、人の健康を基礎に生活、地域、環境、経済、教育、文化という6つの健康の実現に向けて、地域、企業、大学、行政が一体となって総合的に進めていきます。</p> <p>“健康寿命延伸都市・松本 “を実現するための「松本ヘルスパレー構想」</p> <p>平成20年6月に「健康寿命延伸都市」構想を表明、市民一人ひとりの健康寿命延伸を実践するために、新たな健康・医療ニーズを掘り起こし、市民参加・官民の連携により新たなヘルスケア周辺産業が創出され、この恩恵を市民が享受し、更なる雇用・投資・情報等が集積し、地域経済の好順化を実現することを目指す。</p> <p>“松本ヘルスパレー構想の5つの柱 “</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「松本地域健康産業推進協議会」(産官学連携プラットフォーム) 2. 「松本ヘルス・ラボ」の創設 3. 「健康経営」の推進 4. 「松本版PHR『電子版健康手帳』(市民健康づくりプラットフォーム) 5. 「世界健康首都会議」による健康に係わる情報の発信と蓄積 <p>“着実なステップアップ”</p> <p>その構想を実現するための、平成23年7月に産業創出のための関係者を終結したプラットフォーム「松本地域健康産業推進協議会」を立ち上げ、平施23年12月に「世界健康首都会議」を開催、さらに平成26年12月市民の健康増進と新たなヘルスケアビジネスに実証の場として「松本ヘルス・ラボ」をスタートした。また平成27年3月には、現役世代の健康投資を促す「松本健康経営研究会」を、平成27年6月には地域包括ケアとヘルスケア産業の創出を目指して「医療・福祉・健康ICT」基盤研究会」を設置した。</p> <p>視察を終えて</p> <p>市民の健康寿命延伸はもちろんであるが、産業の創出・行政の課題解決・企業誘致・雇用の創出といった幅広い視野に立ってのプラットフォーム協議会設立し、着実に成果を上げ、ステップアップしていることに驚嘆を覚えた。また、社員の健康が業績アップの近道であると「目指せ健康企業」を目標とし小規模企業でも取り組める「健康経営」を推進していることは笠岡市も見習うべしと感じた。わが市に於いては、昨今思い付きの事業が多く見られる、誠に情けなく感じた。1～2年で何事も成果が目に見ることは少ない、また計画においても、多くの意見を聞き熟慮を繰り返し立案することが肝要で、決定したならば迷わず、退かず進める気概がないと物事は成功しないと感じた。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺



H29. 4. 26 松本ヘルスラボオフィス



【2】 長野県 松本市

住 所	長野県松本市蟻ヶ崎 2-4-40
電 話	0263-32-0099
視察案件	松本市中央図書館 現地視察
期 日	平成 29 年 4 月 27 日 (木) 10 時 00 分 から 11 時 00 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	松本市中央図書館
概 要	<p>視察の目的</p> <p>松本市では、「子どもと本をつなぐまち・学都松本子ども読書活動推進計画」(計画期間平成 25 年 10 月～平成 30 年 9 月)を作成し、子どもたちが自主的に読書を通じて学びながら、いきいきと暮らしていくことのできる環境づくりを進めています。笠岡市に於いては、他市と比べ、蔵書数・利用数も少ない状況である。如何に多くの市民に利用して戴くためには、何が必要か他市の状況、方法、開館時間の工夫等を確認し、笠岡市に何か反映できないか、との目的をもって視察に訪れた。</p>
	<p>松本市の現状</p> <p>松本市には図書館が 11 館、それぞれ開館時間は違うが、概ね 10 時～17 時であった。曜日によって、19 時までまだ遅いところで 22 時まで開館の図書館もある。休館日は月曜か火曜日であった。図書館ネットワーク化して、どこでも貸出、返却が出来、検索により希望の図書を取り寄せて借りることが出来る。さらに、信州大学付属病院患者図書館と連携しているほか、県・国、大学の図書館とも相互貸借サービスも行っている。学都松本子ども読書活動推進計画では、①子供が読書に親しめる環境づくり②子ども読書活動を広め・支える人を育てる③連携のための体制を創ることを基本方針としています。</p>
	<p>視察を終えて</p> <p>人口 24 万人の松本市の中央図書館であるからではあるが、大変立派で、充実した図書館であった。特に感じたのは、明るいこと、広々としていること、そして会議室等利用していない場合は、市民に開放していることであった。また 3 階には軽食・喫茶が併設され、市民がゆっくりと読書が出来る環境が整えられていた事である。しかしながら人口 5 万人を切る笠岡市にこのような施設が必要だろうか。建設をするに当たっては、市の規模に見合った図書館にする必要がある。もっと言うと、経済的・効率的に考えた場合、さらに少子高齢化で施設の縮小を考えなければならない時代には、図書館を持たない市があっても良いのではないかとも思う。近隣の図書館・県立図書館等から、ネットワーク化により宅急便等で自宅へ必要な図書が運ばれ、自宅でゆっくりコーヒーを飲みながら、本読むことが出来る集配システムを創ることが出来れば、市独自の図書館を持つ必要がなくなるのではないかとも考えた。2～3 年の内にはそのような事も可能な時代が来るのではないかと。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

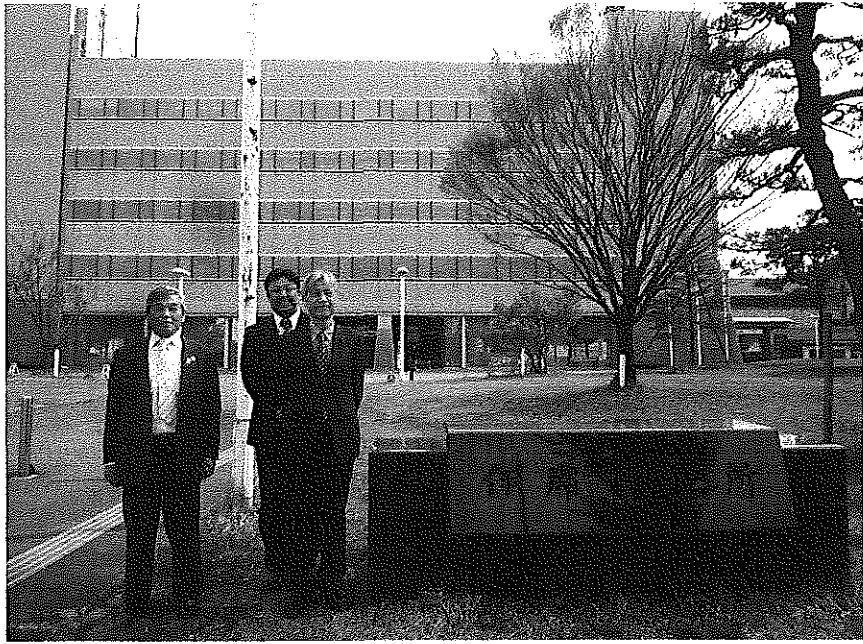


H29. 4. 27 松本市中央図書館



【3】 長野県 伊那市

住 所	長野県伊那市下新田 3050 番地
電 話	0265-78-4111
視察案件	幼保小連携プログラムによる子供子育て支援
期 日	平成 29 年 4 月 27 日 (木) 15 時 00 分 から 16 時 50 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	伊那市役所 第一委員会室
概 要	<p>視察の目的</p> <p>小学校入学後に学生生活に適応できない「小1プロブレム」に対応するため、幼保小連携プログラムに則り、新しい環境にスムーズに適応できる子を育てる。小学校入学前（10～3月）の「アプローチカリキュラム」と入学後（4～7月）の「スタートカリキュラム」などで構成。情緒の安定や原体験の蓄積を基本に個々の子ども自身の成長を支える「風船的発達感」を支援の基本姿勢とし、「興味・関心」「人とのかかわり」「自発的・自主的学び」の成長を促すための連携や活動を行っている。また、教師と保育士の相互研修を行っている。笠岡市も幼保一元化、小中一貫校を目指しているが、最も重要なことは幼保小の連携であり、伊那市の現状を視察するために訪れた。</p>
	<p>伊那市の現状</p> <p>子育てにぴったりな伊那市をキャッチフレーズに、切れ目のない子育て”支援”と”環境”の充実を行っている。妊娠・出産から高校を卒業するまでの間、子育て環境をより良いものとする為、切れ目のない子育て支援に取り組んでいる。豊かな自然体験から学ぶ保育や子育て相談体制の充実、保護者負担の更なる負担軽減（子育て世帯に対する市営住宅の家賃軽減制度・総合病院や産科・小児科の立地・出産祝金・保育料の減免・子ども医療費の補助・高校生の通学費補助）など、あらゆる分野から子育てに”ぴったり”なまちづくりを進めている。公立保育園が 19 校・市立が 2 校、私立幼稚園 1 校・認定こども園 2 校で、小学校 15 校、中学校 6 校あり、特出すべきは ICT 教育による遠隔授業を小学校 5 校・中学校 2 校で行っている。子育て支援センターは市内 5 カ所で、育児の悩みなど保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士などが対応し、子供相談室は 24 時間対応をしている。各保育園・幼稚園では、小学校入学（5 歳児）まで見るので、「小1プロブレム」に対応しやすい環境にあるとのことであった。</p>
	<p>視察を終えて</p> <p>山間の条件を活かし、豊かな暮らしを、そして子育てのし易い環境づくりには、目を見張るものがありました。特に小学校入学（5 歳）までを一貫したプログラムにより切れ目のない支援を行うことは、文部省と厚生省の垣根を超えた独自の方法であり、新しい発見をした。こだわりもなくスムーズに行っていることに驚き、垣根があると思っていたことが間違いだと気づかされた。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺



H29.4.27 伊那市

